

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2011年6月22日）

活動日前日の21日に、気象庁が東北北部も梅雨入りしたらしいと発表したため天候が心配でしたが、朝から晴れて暑い一日となり、むしろ熱中症が心配なほどでした。

ほぼ定時の5時45分過ぎに弘前大学を出発し、野田村を目指します。参加者は36名。内訳は男性18名、女性12名。所属別では、学生7名、市民26名、教員3名でした。やはり平日ということもあって、学生の参加者がかなり少なくなっています。恒例の道の駅「おおの」での記念撮影、車内で自己紹介とオリエンテーションを行い、そして「しあわせを運べるように」を歌いました（私は約2ヶ月ぶりだったため、記念撮影と歌は初めての経験でした）。学生事務局担当の田上君と日野口さんが2人で相談しながらテキパキと進めてくれたので、私はほとんどやることはありませんでした。

野田村到着後、仕事が割り振られました。この日の「チーム・オール弘前」の活動は、14人と16人の2つのグループに分かれて、個人のお宅の瓦礫の撤去です。それとは別に、仮設住宅などを回る、李先生・作道先生を中心とした6人の別働隊が組織されています。

私が参加した14人のグループは、物置の中の物を外に運び出し、中の泥を撤去する作業、庭の泥を撤去する作業、庭に砂利を敷く作業を行いました。丸一日掛かってしまいましたが、それでも物置の中は泥もすべて撤去されてきれいになり、庭の泥も片付いて砂利が敷き詰められ、家主さんが依頼された内容はほぼ完了することが出来ました。僅か1件のお宅のお手伝いだけですが、やはり依頼内容を完遂できたことは充実感に繋がります。また、その家主さんに「次はいつ来る？」と聞かれ、7月の活動日をお伝えしたところ、カレンダーに印をつけておられました。そして、「また次も頼むから」と仰っていただきました。私たちが一日の活動で出来たことは僅かでしたが、それでも次も頼みたいと思っただけなのは、その日の活動に満足していただけたからだと思います。もちろん評価を得たくて活動をしている訳ではありませんが、やはりそのような言葉はありがたいですし、次の活動に向けての励みにもなります。体は疲れましたが、心が満たされた活動でした。



恒例の道の駅「おおの」での集合写真



気温 30℃のもとでの作業

もう一つのグループも、やはり個人のお宅に伺いました。そのお宅は高台の上にあるのですが、瓦礫が敷地よりも低いところに落ちており、それを一旦敷地内に引き上げた上で土嚢に詰めなければならず、さらに瓦礫自体も若干大きなものだったため、かなり体力を消耗する作業だったとのこと。こちらのグループも丸一日掛かったものの、家主さんから依頼された内容を終わらせることが出来たようです。

そして、李先生率いる別働隊は、午前中は仮設住宅を、午後は個人のお宅を1軒1軒回り、弘前市内の小学生に書いてもらったお手紙と「などわど通信 第2号」を配りながら、野田村の方々のお話を伺ってきたそうです。

この日の昼食は、米田公民館の皆さんのお招きに預かり、「チーム・オール弘前」のメンバー全員でお昼をご馳走になりました。松茸ご飯のおにぎりやイカ焼き、めかぶなど、心づくしのお料理をいただきました。どれも美味しかったのですが、とくに絶品だったのが出来たてのお豆腐でした。味はもちろん、温かいものを食べて欲しいと私たちが到着する直前まで待って仕上げをしてくださった、その心遣いが味をいっそう引き立てていたと思います。米田公民館の皆さんとお話をしながらの昼食はとても楽しいひと時であり、午前の疲れが吹き飛ぶと同時に、午後の活力にもなりました。

お心遣いをいただいたのは、米田公民館の皆さんだけではなく、私の参加したグループでは、家主さんが休憩の際にアイスクリームやジュースを差し入れしてくださいました。ボランティアとして参加しているのに差し入れをいただくのは、若干の心苦しさもありますが、せっかくのお心遣いでしたので、参加者全員で美味しくいただきました。もう一つのグループも同じようなことがあったようです。

帰りのバスの中も、田上君と目黒さんの学生事務局スタッフが進行をうまく仕切ってくれました。また、市民参加者の中でベテランの域に達している方々も、「そろそろ休憩だよ」「早く歌わないと大学着いちゃうよ」などと、さりげないフォローで事務局を盛り立ててくださいました。徐々にチームワークも醸成されています。バスの中で聞いた一日の感想では、以下のような言葉が聞かれました。



米田公民館で「などわど通信」をお渡しする



米田公民館での昼食風景

- ものすごく暑かった。開始 10 分で今回はダメかと思った。
- 暑くて、暑くて、暑くて、暑くて…、本当に暑くて、最後がなかなか見えてこなかった。
- 大きな瓦礫を見て自然の力はすごいと思った。でも、人の力はそれにも勝ると実感した。
- 主婦の目から見て、あれほどの数のお料理を揃えるのは大変だっただろうなと思った。とても感激した。
- お昼をご馳走になり、とても美味しかった。ああいうひと時は、こちらからご馳走を持参して、一緒にお昼を食べるのもいいかなと思った。

この日は風が若干あるもののとにかく気温が高く、最高気温は 30℃を超えました。その暑さの中で、長袖・長ズボンのジャージ、長靴、帽子とマスク、ゴーグル、さらに「弘前大学人文学部」のユニフォームはかなり堪えました。こまめに休憩をとり、水分補給をしないとかなり危険な状況だったと思います。これから夏場の活動は、とくに注意が必要でしょう。

今回の活動には、ある高校の運動部の監督さんが参加されていました。その方が、「夏休みには是非部員を連れて参加したい」と仰ってくださいました。李先生を中心とした別働隊が野田村の皆さんにお渡ししたお手紙は、弘前市内の小学生が書いたものです。これまでは、主に市民の皆さんと大学生の共働による活動が中心でしたが、今後は様々な世代の皆さんの力を結集した交流・支援活動が展開できるのではないかという可能性を感じる事が出来た一日でした。

最後に、米田公民館でお昼をいただいた後、海岸線を回って野田村災害ボランティアセンター前に戻りました。そこで見た光景は、改めて津波の恐ろしさ、凄まじさを感じさせるもので、言葉が出ませんでした。山のように積まれた瓦礫の山、途中から折られた多くの松、小高い山の上にあるにもかかわらずなぎ倒されている木々、辛うじて土台があることのみ住宅街であったことが分かる地面…。私は初めて見た光景でしたので、復興まではまだまだ長い時間が必要なのだということを、よりいっそう、そして改めて実感しました。今後も、野田村の方々と交流をしながら、少しでも力になれるような活動を続けていきたいと思っています。

(担当 平野 潔)